

2 地理歴史

科目名	日本史 B	単位数	5	学年	第学年	科	普通科
					第3学年		コース
使用教科書	新選日本史B（東京書籍）			副教材	日本史Bワークノート		

学習の到達目標

1. 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させる
2. 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

学習計画

	月	単元	学習内容及びねらい
一 学 期	4	第1章 古代国家の形成と貴族文化の誕生	人類の出現から、平安時代の末期までをとりあげる。大陸から日本列島に移り住んだ人類は、狩りや漁を主とする縄文時代、稲作を主な生業とし金属器が広がりがだした弥生時代を経て、しだいに「国」の形をつくりあげていった。この間、人々の間に貧富の差が生じ、統治する者とそれに付き従う者という身分の区別が発生してくる。やがて中国の国家を手本とし律令を基盤とする中央集権国家が成立していく事になるが、一部の支配層である貴族などに富が集中する構図も形を変えて発展していく事になった。古代の国家がどのように形成されていったのかを学ぶ。
	5	1 原始社会の生活と文化 2 農耕社会の形成と大陸文化の摂取 3 律令国家の形成と古代文化の展開 4 摂関政治と文化の和様化	
	6	第2章 武家社会の形成と生活文化のめばえ	鎌倉幕府が成立した時期から室町時代の末期までをとりあげる。鎌倉時代は封建的主従関係を基礎とする武家政権が初めて成立し、教徒の公家政権と並立して全国を支配した。つづく南北朝・室町時代は権力の分裂と内乱を経て、室町幕府が公家政権を圧倒して権力を強める一方、各地では惣という自
	7	1 中世社会の成立	
二 学 期	9	2 武家社会の形成と東アジア 第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開	立的な集団が生まれ、地域や国ごとの一気に結集して相互の利害調整をはかった。やがて応仁の乱による都の壊滅が権力の地方分散と内戦をもたらし、各地に登場した戦国大名が自立的な地域権力を形成していく。武士が力を伸ばし、どのような社会を形成していったのかを学ぶ。
	10	1 ヨーロッパ文化との接触と国内統一 2 幕藩体制の成立 3 近世社会の発達と町人文化 4 幕藩体制の動揺と庶民文化の発達	江戸時代を中心に16世紀の中頃から19世紀の中頃までの約300年間をとりあげる。戦乱が打ち続いた世の中は次第に統一の方向に向かっていき、やがて江戸幕府が支配体制を築き上げるに至った。この間ヨーロッパの文化との接触もあり、様々な文物の流入などが社会に大きな影響を及ぼしている。世界史上でもまれな戦いの無い時期が長く続いた日本の近世ではどのような社会が形成され、どのような文化が開いたかを学ぶ。
	11	第4章 近代国家の形成と国民文化の発展	
	12	1 開国から明治維新へ	ペリー来航から第二次世界大戦終結の時期までをとりあげる。明治政府が成立し、日本は近代国家としての改革を進めつつ、日清・日露戦争によって
三 学 期	1	2 立憲政治の形成と国民文化 3 日本の近代化と東アジア 4 デモクラシーと第一次世界大戦 5 激動する世界と日本	アジアでの勢力拡大を図った。産業革命が進み、資本主義が発達する一方で活発化する民衆運動を背景に政党政治が実現していく。しかし、世界との関わりの中で相次いで発生した不況と恐慌を背景に、やがて軍部が台頭し戦争へと突入する。長期にわたった戦争は国内外に多大な被害を与える結果となった。近代国家の形成と歩みとはどのようなものだったのかを学ぶ。
	2		
	3		

学習評価

1. 定期試験・小テスト・課題の提出状況・授業態度などを総合的に評価する